

集学的治療でがん克服へ

日本胆道学会 札幌で開催

第59回日本胆道学会学術集会「真の集学的胆道診療を求めて」(会長・平野聡北大消化器外科学教室II教授)が札幌市で2日間の日程で開催された。1日目の特別講演として取り上げられたテーマは、熊本大小児外科学・移植外科学講座の日比泰造教授による、胆道がんの根治的治療戦略の一つとしての肝移植治療。その将来性を示すとともに、同氏が研究代表を務める先進医療Bへの協力を呼び掛けた。会長講演では、平野氏が教室における胆道がん診療・研究の成果を振り返るとともに、集学的治療の重要性を訴えた。

日比氏 移植と切除は相補的に

日比教授の特別講演のタイトルは「切除不能な胆道癌に対する肝移植：Transplant Oncologyに基づく腫瘍学的根治性を達成するための治療戦略」。Transplant Oncologyは移植医学と腫瘍学を融合し、がん診療・研究を飛躍的に発展させる概念として、日比氏が9年前から提唱している。

移植先進国である米国のメイヨークリニックでは1990年代から、リンパ節転移のない切除不能な肝門部領域胆道がんに対する術前化学放射線療法後の肝移植治療について、良好な成績を報告してきた。米国ではこの結果に基づき09年から標準治療として承認され、12年に全米12施設で移植された214人の5年無再発生存率は65%を記録したという。



特別講演でTransplant Oncologyの将来像を解説した、熊本大小児外科学・移植外科学講座の日比泰造教授

米留学時にこの移植手術を見た日比氏は帰国後、14年からTransplant Oncologyを提唱。当初は①肝移植を組み合わせることに由来する集学的治療の進化(エボリューション)②移植手術の非自己認識の解明(イルシテーション)③3つのEを柱に掲げた。日本は70年代以降、肝

平野氏 コンバーションも進む

平野聡教授の会長講演

にし、感銘を受けた経験は「教室における集学的胆道がん診療と研究の歩み」。まず自身の胆道診療との出会いとして卒後10年目、先代教授で同学会理事長も務めた故近藤哲氏の圧倒的な胆道がんの手術治療を目の当たりにし、感銘を受けた経験

門部領域胆道がんの拡大切除で世界を先導してきた。肝臓に広く進展するヒストタイプIV型がんは欧米では長らく切除不能とされてきたが、世界屈指の症例数を誇る名古屋大では、リンパ節転移がなく切除に至った86人の5年生存率が53%。北大を含む日本のハイポリウムセンターでもほぼ同等の成績が示されており、切除可能な患者にも移植を推奨する米国の報告は国際的にも批判的な論文報告がなされた。

一方、切除不能と判断された患者のうち、局所進行や肝予備能不良であった患者に対して移植治療は治療可能性を提供できることから、国際的枠組みで議論すべきと考え

た日比氏は18年の国際肝移植学会でTransplant Oncologyを正式に提唱。その際、3つのEに新たに「がんのゲノムクス解析に基づく本態探究(エクスプローレーション)」を加えて4本柱とした。

会長講演では、北大消化器外科学教室IIの平野聡教授が集学的胆道がん診療の進歩に向けた取り組みを熱く語った

だとして条件付き推奨としている。日本でも、切除不能な肝門部領域胆道がんに対する生体肝移植の保険収載に向けて、日比氏を研究代表者とする多施設前向き臨床試験が先進医療Bとして昨年9月に告示された。北大も参加する20例を登録、術後3年生存率を主要評価項目とし、全体では9年間の長期試験。「最新のメイヨークリニックの成績である5年生存率、47.5%を上回った場合、臨床的に有効と判断する」とい

定する因子が全て完全に制御されれば、がん特異的生存率はほぼ100%を達成できる。

日比氏は最後に「腫瘍学、移植医学に関わるあらゆる臨床と基礎の専門家と医療職が、施設や国の境界を破って英知を集めることで、とても集学的な役割を担う」と強調。「切除できない福音を患者にもたらす」と信じる。そして多くの難治がんが治るようになる時、人類は新たなエネルギーを迎える」と締めくくった。

また同教室では先々代教授の加藤弘之氏の先見の明で、20年前から胆道がん組織サンプリングを開始。理化学研究所と組んで網羅的ゲノム解析を行い、全体の5.5%に27の生殖細胞遺伝子変異のいずれかが同定された。中でもBRCA2およびPALB2変異を持つ胆道がんのうちHRD(相同組み換え修復欠損)状態となっている胆道がんは、白金製剤やPARP阻害剤などの効果が期待できるといふ。

平野教授は、進歩が目覚ましい非手術療法と手術療法を組み合わせた集学的治療の進歩に望みをかけ、締めくくりにはクラーク博士の言葉を引きつつ「胆道医としてあるべき全てのものを求める大志をもって、学問を究め、患者のために努力していく」と誓った。